

ごあいさつ



阿 部 宏 慈

ダイバーシティ連携推進会議議長
山形大学男女共同参画推進室長

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）の2年目の実施報告に当たり、連携機関であります大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学との3機関の間で設置しましたダイバーシティ連携推進会議の議長としまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本事業は、3機関が連携して6年間実施することにより、女性研究者の研究力を向上させ、女性研究者が増えること、上位職者が増えることを目的としております。また、共同研究の進展に合わせて参加機関数を増やしていくことも期待されております。

昨年度の取組みにつきましては、6名の有識者による外部評価委員会を設け、昨年2月に第1回の評価をいただきました。そこでは、「連携体制ができておりいいスタートをきっている。課題は、『女性が代表となる共同研究の実質的な成果をあげること』と『その中で男女共に人材が育つこと』である、という指摘を受けました。これを肝に銘じ、2年目の取組みを進めて参りました。

6月には、管理職セミナーと題してワーク・ライフ・バランス研究の第一人者である山口一男氏（シカゴ大学）を迎え、多様な人材が活躍できるダイバーシティ経営を学びました。11月のシンポジウムでは、宮浦千里氏（東京農工大学副学長・女性未来育成機構機構長）から、女性が活躍できる研究環境についてご講演をいただきました。続いて、3件の共同研究の成果発表が行われ、宮浦氏と城戸淳二教授からの的確な研究助言をいただき有意義な時間をもつことができました。

今年度は、女性研究者が代表となる共同研究が10件成立し、大日本印刷研究開発センターによるサービスデザイン・ワークショップもフェーズ3へと進んでいます。その中には特許申請や技術提携等、実用化に向けた動きも生まれてきています。各種支援制度の利用者ものべ54名（平成29年3月時点）にのぼり活用いただいています。また、学生・大学院生等を対象としたキャリアセミナーや連携機関への交換留学を行い、研究者の裾野拡大を図っています。

以上、詳しくは、本報告書に紹介しておりますので、是非ご覧ください。

長期にわたる本事業が成功し、実り多いものとなりますよう、関係各方面の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。